

伊藤大佐

号

伊藤霞臺

いとう・だいすけ

いとう・かだい

福山藩儒者(福山伊藤家2代)

経歴

生:享保9年(1724年)5月29日、福山西町生まれ

没:宝暦3年(1753年)9月2日、享年30歳、定福寺に葬る

元文5年(1740年)9月1日	16歳	御供番召出
延享2年(1745年)	21歳	家督を継ぎ、上下格儒者役になる
寛延3年(1750年)4月	25歳	朝鮮通信使と靉津対潮楼において接談する

生い立ちと学業、業績

享保9年(1724年)5月29日、伊藤重蔵(梅宇)の次男として福山に生まれた。字は大佐・必大、名は輝祖、号は霞臺。

福山藩儒。

元文5年(1740年)9月1日御供番召出。

延享2年(1745年)家督を継ぎ、上下格儒者に任じた。

寛延3年(1750年)4月朝鮮通信使来朝のとき、靉津対潮楼において接談した。

著書に『萍交唱和集』がある。

配は山岡氏の女。

平素病弱であった。

没するに先立ち、自ら詩を作って墓文の代わりとした。

宝暦3年(1753年)9月2日没、享年30歳、定福寺に葬る。

伊藤東涯の長子である東所[善韶]が墓陰に書した。

『伊藤善韶撰 霞臺先生墓碑銘』。

嗣子なく、弟の伊藤修佐が家業を継いだ。

誠之館所蔵品

管理No.	氏名	名称	制作／発行	日付
05308	伊藤大佐(伊藤霞臺) 書	書「枕中忍思」	—	—

出典1:『福山藩の文人誌』、39頁、濱本鶴賓著、葦陽文化研究会編刊、1988年7月27日

出典2:『近世後期の福山藩の学問と文芸』、74頁、福山市立福山城博物館編刊、1996年4月6日

出典3:『郷賢録』、4頁、福田禄太郎著、福山城博物館友の会編刊、平成12年10月1日

出典4:『福山藩の教育と沿革史』、清水久人著、鷹の羽会本部阿部正弘公顕彰会編刊、1999年8月20日

出典5:『福山の今昔』、146頁、濱本鶴賓著、立石岩三郎刊、大正6年4月26日

出典5:『福山学生会雑誌(第53号)』、附1、「伊藤梅宇先生履歴」、伊藤顧也寄、福山学生会雑誌編刊、大正7年7月3日

2005年3月24日更新:経歴・本文・出典●2006年6月15日更新:タイトル●2008年2月12日更新:経歴・本文●2009年1月5日更新:誠之館所蔵品●2009年1月19日更新:誠之館所蔵品●2010年3月18日更新:氏名・本文・出典●2010年3月29日更新:本文・出典●2011年4月18日更新:誠之館所蔵品●